

## 指導の工夫（見逃せない一瞬）

### 「自分たちで作ってみようよ！」～地域との連携～（5歳児）

富田林市立錦郡幼稚園（大阪府）

#### 保育者の工夫

ツバメの巣作りへの興味を深めた子どもたちが、自分たちもツバメ同様「泥と枯草を使って本当に巣が作れるのか？」と言い始めた。泥と枯草をツバメは自分のツバで固めることを図鑑で知った子どもたちは、「どうしよう」と考え込んでしまった。そこで、地域の陶芸教室の方に協力を求め、泥粘土がツバの代わりになることを教えていただく。巣作りに必要な土作りから自分たちで取り組めるようにする。

#### 子どもの姿

友達と協力して、巣作りに必要な泥を作る。ツバメが使っていた土を思い出し、友達と水加減を考えながら泥作りをする。  
泥を作り終わると、自分たちで畑に向かい、迷わずツバメの巣の下に落ちていた枯草と同じ草を見つけて使う。  
粘土板を壁に見立て巣作りをするA児の発想が広がり、本物をよく見て形を作る。作ることの大変さを経験し、ツバメへの興味がより深まった。



#### ポイント

毎日観察しているうちにツバメに愛着をもち、さらにより興味を深めた子どもたちの発想を実現できるようにと考え、地域の方の協力を得ています。子どもたちは、それによってツバメの巣を自分たちで再現することができ、よりツバメのことを理解したり、興味を深めたりすることに繋がりました。

### 「枝豆から大豆に変身！！」

社会福祉法人五倫会 中郷保育園（青森県）

#### 保育者の工夫

絵本<sup>\*</sup>を見て、「保育園の枝豆は大豆になるの？」という子どもの思いを受け止め、そのまま育てることにする。“大豆の収穫時”に興味をもった子どもの思いを活かし、収穫の時を自分たちで調べるように援助する。そして、できた大豆を使い、自分たちできな粉作りに挑戦できるようにする。

#### 子どもの姿

##### <大豆収穫まで>

大豆やその収穫時に興味をもった子どもたちは、図鑑で“葉が全部枯れ落ち、鞘が茶褐色になり、振るとカサカサ音がするようになった時”ということを知った。そこで、茶褐色はどんな色なのか調べたり、大豆の色の変化をよく観たり、鞘の音を聞いたりなど、色と音と触った時のバリバリ感を何回も友達と一緒に確かめ合ってきた。そして11月下旬に収穫した。

##### <きな粉作り～味わう>

炒った大豆の匂いをかいだり、焦げ目を見たりする子どもたち。荒熱を取り、ビニール袋に入れて麺棒でつぶすが…。C男：「なかなかいかないね。大豆固いな」B子：「もっと簡単につぶれると思ったのに。でも、きな粉食べたいから頑張る！」

なかなか細かくならず、すり鉢と、粉フルイを使って奮闘！ゴリゴリしている間は、「まだかな、結構きついな…」と言っている。やっと細かくなり、いよいよフルイにかけると、「わぁ！うまそう♪」「サラサラしてきれいだね」「早く食べたい」「みんなにも見せよう」と大喜び。

もちつき会当日、少量の砂糖も加えてお餅につけ、きなこ餅にして食べてさらに驚き感激する。C男：「うわ、うっめー！こんなおいしいと思わなかった」A子：「大豆作ってよかった！」



作：こうやすすむ  
絵：なかじまむつこ  
発行：福音館書店



#### ポイント

大豆の生長過程を細やかによく観たり・音を聞いたり、嗅いだり・味わったりなど関わりを深め、様々な感覚を使って大豆への興味を深めていることが分かります。長期に亘って友達と一緒に育て、収穫し調理し味わう時までの共通体験は、植物を育てる今後の活動への意欲や興味の広がりにも繋がることが期待できます。